



「特別」な学級・学校の歴史

キーワード 教育史 / 地域史 / 特別支援教育 / 附属学校

どのような研究をなぜ行っているか

日本における「特別」な学級・学校の歴史について研究しています。「特別」な学級・学校も近代教育を構成する要素であり、「特別」な学級・学校の歴史を含めた教育史や地域史を描き出す必要があると考えているからです。「特別」な学級・学校の歴史を例外として排除するのではなく、それらも含めた歴史を記述すること／しようとするのが、誰ひとり取り残されない未来をつくっていくための基礎ではないでしょうか。こうした意識のもと、まずはその一步として「特別」な学級・学校の歴史を掘り起こし、事実をできるだけ正確に明らかにすることに努めています。

研究の方法は、各地の学校や文書館、図書館に遺され传承されてきた歴史資料の調査・収集を主としています。個人の手記や学校文書から雑誌、新聞、行政文書、県会議事録、文部省や政府の刊行物まで幅広い資料を分析することによって、教師と子どもとの間の個別具体的な実践がなぜ成立し得たのかを、学校・地域・財政・施策・情報交流といった点から多層的に検討し、実践をより立体的に描き出すこと、そしてより広い文脈のなかに位置づけることを目指しています。

これまでの研究では、以下の学級・学校および地域を対象としてきました。

1) 特別支援教育関係

- ・ 師範学校附属小学校の「特別学級」：1907年前後に設置された、視覚障害や聴覚障害、その他発達に何らかの困難があると考えられた子どものための学級。大阪、岩手、千葉、長野、福岡など。
- ・ 奈良女子高等師範学校附属小学校の「特別学級」：1912年に設置された、当時「劣等児」や「低能児」だとみなされた子どものための学級。
- ・ 愛知県の「特殊学級」：1960年代に設置された、障害のある児童生徒のための学級。

2) 師範学校附属学校関係（※市町村立学校ではないという意味で「特別」とみなされる）

- ・ 奈良県女子師範学校附属小学校：1904年に地域の子どもの受け入れて開校
- ・ 奈良女子高等師範学校附属実科高等女学校：1916年に市立学校の再編を伴って開校

また、歴史資料を保存・活用し、継承していくための活動にも携わっています。

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

上記の研究によって、これまで十分に光があてられてきたとはいえない「特別」な学級・学校の歴史、いわば取り残されてきた歴史を実証的に明らかにするとともに、従来の通説を更新しました。この成果を活用して、そもそも「学級」とは何か、「学校」とは何かを原理的に問い直し、誰ひとり取り残されない未来を実現するための「学級」や「学校」の姿を構想することに貢献します。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- ・ 奈良県教育委員会教育職員免許法認定講習講師 「特別支援教育基礎論」担当（2022年度）
- ・ 愛知県史編さん委員会 調査協力員（2019年7月～2020年3月）
- ・ 愛知県教育史執筆員 障害児教育担当（2018年8月～現在）